

郷土博物館のあり方について（案）

1 現状と課題

博物館であるが、観光プロモーションの拠点としての側面も有するが・・・

1 博物館機能の脆弱性

- ①観光課所管の施設である「郷土館」として開設された後に、博物館となった「生い立ち」から、ハードウェアとしての不適合性が強く、収集・保存・展示・研究・教育といった本来博物館に求められる業務を遂行する上で物理的に支障が多く、結果として資源に対して十分な博物館としての検証等の機能が発揮できていない。
- ②スペースの関係から事務室をはじめ研究・教育事業に対して十分な広さを確保できず、人員的にも極めて過少である。
博物館である以上、学芸員とパブリシティ担当者の専務化と質的充実が急務である。
「調査・研究→広報→展示・教育普及→評価→新たな研究」のプロセスの充実は不可欠である。
- ③職种的にも本来の博物館機能を果たしていくための専門職が不足しており、正職員若しくは嘱託の学芸員の採用が必須である。
また、管理運営面においても企画広報面も含め体制が脆弱である。

2 観光プロモーション活動の脆弱性

観光プロモーション活動をアグレッシブに展開し都市アイデンティティの4つの地域資源の一つとして、その確立の一助としていくうえで、イベント等の企画及びパブリシティ、また庁内外のイベント等とのリンケージによる相乗効果等を十分に実施するための、博物館機能以外の組織体制の整備が急務である。

2 基本方針

1 博物館機能の強化

- ①施設整備 ※下記の「施設整備について」を参照
現状の「千葉城」はランドマークとして残す前提で、「博物館機能を十分に考慮した広さと諸室の構成」を備えた博物館を整備する。併せて「観光プロモーション」に相応しい機能を持たせる。
※千葉氏関連のみを「千葉城」に残し、千葉城をガイドランス施設とし、通史全般に係る「博物館」については跡施設利用や複合施設への移転なども視野に入れ別途検討する。
- ②学芸機能の充実
研究・展示・教育普及をドラスティックに展開できる人材・人員を確保し、学芸機能を充実させ、博物館としての本来の役割を果たし、千葉氏を筆頭に通史全般を網羅した市史博物館とする。
- ③市民との協働
研究・展示をはじめボランティア活動やパブリシティの支援など、市民との協働による市民の誇りとなる博物館運営
- ④合理的で合目的な管理運営形態への移行
学芸面の直営を確保した指定管理者制度の導入等について検証・実施し利用者サービスの向上と機動性の高い管理運営、学芸面の一層の充実を図る。

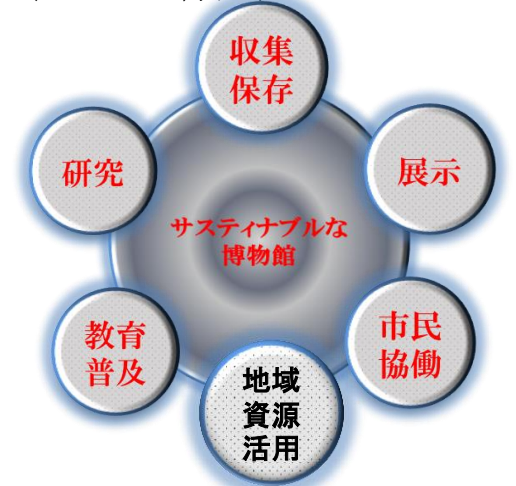
2 観光プロモーション活動の強化

4つの地域資源の一つである「千葉氏」を中心に、隣接の県文化会館、県中央図書館や近隣の千葉市科学館、千葉市美術館と緊密に連携し、都市アイデンティティのバックボーンとなる市史をインスパイアした観光プロモーションを展開する。
そのために、プランニングとパブリシティ部門を強化する。（専門性を考慮したアウトソース化）

3 今後のあり方

歴史系博物館としての正当性を十分に確保したうえで、地域資源としての観光的な側面を併せ持ち、本市の過去を検証し未来へ繋げる都市アイデンティティ（千葉市らしさ）溢れる施設

- ☆ 千葉氏を筆頭に本市の通史全般を網羅した、総合市史博物館
- ☆ 地域資源の回遊拠点である博物館
- ☆ 学校教育と強固な連携関係にある博物館
- ☆ 史学リテラシーが涵養される博物館
- ☆ 魅力的でユニバーサル、かつ品格のある市民に開かれた博物館
- ☆ 学芸面も施設管理面も機動性の高いサステイナブルな博物館



博物館の品格と
憩いの場を兼ね備えた
市民の誇りの博物館

※「施設整備について」

- ・研究に専念できる環境
- ・魅力的で、訴求力のある展示
- ・教育普及の充実（講座室、講堂等の整備及び講演・講座・WS用備品類等の充実）
- ・研究成果（展示・普及活動）の発表の場の確保
- ・誰にも優しいユニバーサルな館内
- ・カフェ、ミュージアムショップ等の設置による利便性と利用者満足度の向上

実現のためには
要整備

整備に当たっては、市全体の財政状況や他施設案件等との総合調整により、改修時期等は流動的であるが、あるべき姿の将来像（整備構想・計画）は早急に明確化し策定していく。